

第4回公認心理師国家試験講評と解答

(2021年10月29日版解答)

LEC 公認心理師講座作成担当 (文責 神戸威行)

本講評と解答速報について

2021年9月19日に第4回公認心理師国家試験が実施された。本講評では(1)第4回試験の注目点、(2)日本心理研修センター発表版の解答、(3)LEC各講座にて取り扱った内容との適合度、(4)LEC公認心理師基礎力チェック模試+予想公開模試と第4回本試験との適合率、(5)今後に向けた学習上の留意点、(6)次年度(第5回本試験)に向けたLECからの講座・模擬試験予定について説明する。

(注) なお各項目や評価はLEC独自の判断によるものである。参考程度に留めて頂けたら幸いです。

1. 第4回試験の注目点

①合格点は138点(60%)と想定。合格率は65%~75%のレンジを予想している。

- ・現時点では合格点は138点(60%)で、前年と変わらないと想定している。
- ・仮説として全体の合格率は65%~75%のレンジで予想をした。実際の合格率が65%~75%のレンジより上回っているとすれば、初回受験生・越年受験生の両者ともに短期勝負に打ち勝って結果につながった証左であろう。下回ったとすれば、準備期間の短さや試験時期など他要因もクロスして下振れした可能性が考えられる。

②第1回~第5回までの平均合格率は累積合格者数を加味した上で総合的に判断している。

回数	試験日	受験者数	合格者数	合格率	総得点	合格点
第1回	2018年9月9日	35020	27876	79.6	230	138
第1回北	2018年12月16日	1083	698	64.5		
第2回	2019年8月4日	16949	7864	46.4		
第3回	2020年12月20日	13629	7282	53.4		
第4回	2021年9月19日	21055	12329	58.6		143
		87736	56049	63.9		

- ・第1回開始前から想定されていた合格者数(約5万人)は上回る可能性がある。ただし、本年3月に発表された「公認心理師の活動状況等に関する調査」にも記載されているように、調査時で多くの心理師が誕生していたにも関わらず、「心理支援へのアクセシビリティ」が充足されていない領域や地域も未だ多く、合格者数を減少させる方向性とは考えづらいというのが現状である。
- ・「公認心理師の活動状況等に関する調査」とは第2回までの登録者35400人(合格者36438人のうち登録をした97.2%の35400人)を対象に調査を依頼し、13747人(有効回答率38.7%)から回答が得られた調査である。(厚労省委託事業)

回数	受験者数	合格者数	合格率
第1～3回合格率	66681	43720	65.6
第1～2回合格率	53052	36438	68.7
第2～3回合格率	30578	15146	49.5
第3～4回合格率	34684	19611	56.5

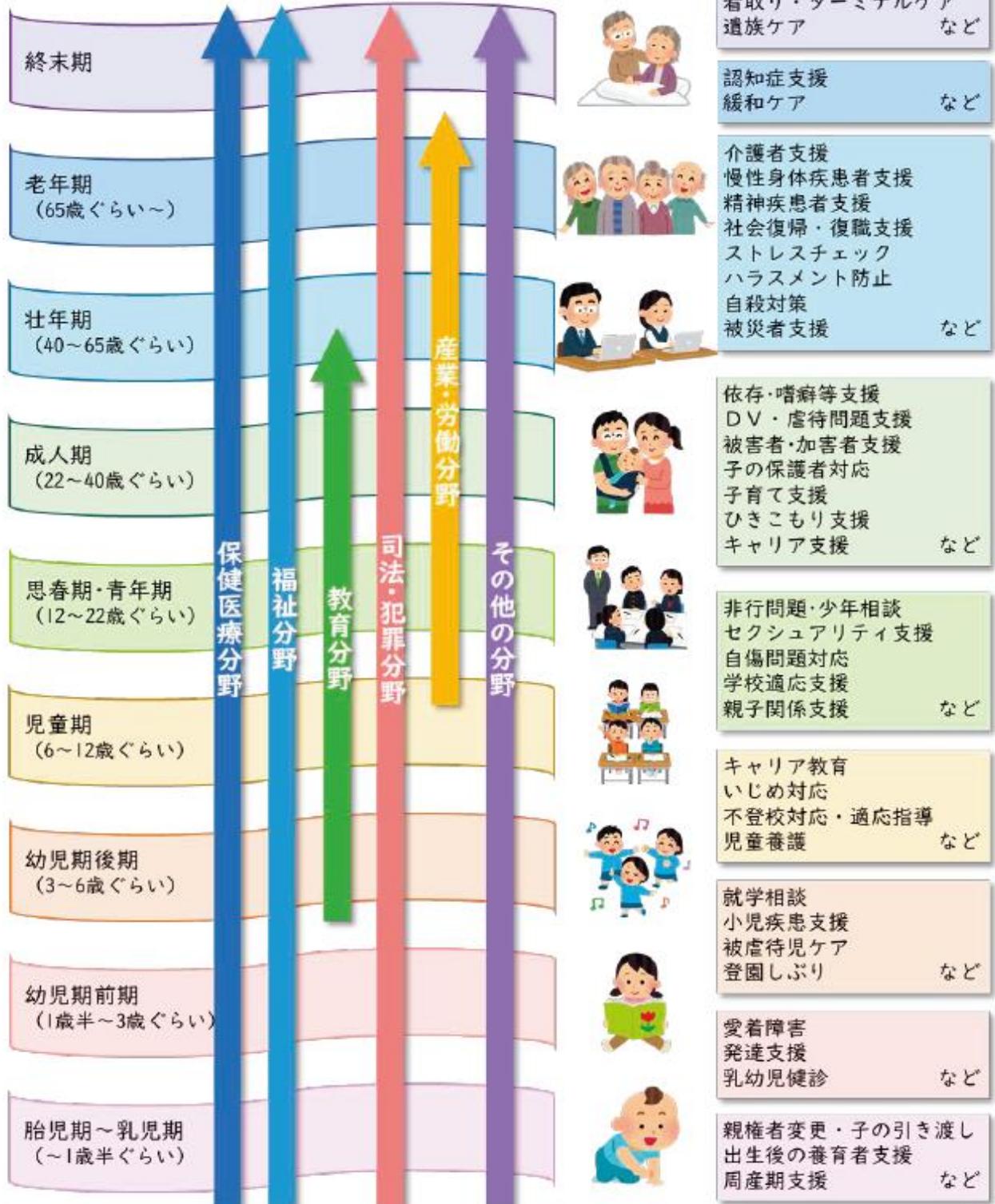
- ・第1回から第3回までの合格者数は43720人（合格率65.6%）であった。他資格・他試験（国家試験や臨床心理士試験など）を鑑みると第1回～第5回までのトータルの合格率は6割前半程度であることが適当であると思われる。第3回では蓋を開けてみると53.4%の合格率となり、現任者を受験者の奮闘もあり想定以上の合格率になった回でもあった。第3回の結果を受けて第1回～第3回のトータルでの合格率では65.6%となったため、第4回でも抑制される可能性も考えられた。
- ・しかし、第2回と第3回の平均合格率は49.5%であり、第2回と第3回受験生は不利な試験であったことは考えておきたい。公認心理師試験は得点調整や難易度調整が難しいことも相まって、作問の方向性が定まりづらく、第2回と第3回はその課題が反映された形となり、第4回に合格を持ちこず受験生が増えたことは課題であった。
- ・第6回以降の試験（第1回～第5回の現任者ルートの平均合格率と第6回以降の養成ルートの平均合格率の差を極力小さくする）を踏まえると、現在も全体調整の意味合いが残っていることは否めない。過去の国家試験と同様に現任者試験が行われる第5回までその調整は続くものと考えられる。
- ・第4回の試験作成にあたっては上記の課題に加えて、難易度を高めたことで不利となった第2回・第3回からの持ちこし受験生が多くなっている点、第4回の準備期間（試験委員の調整を含む）、活動状況調査を踏まえて今後において期待される心理師の活動（課題を含む）など幅広く検討されたものと思われる。

回数	受験者数	合格者数	合格率
第1～2回合格率	53052	36438	68.7
第3回合格率	13629	7282	53.4
第3～4回合格率	34684	19611	56.5
第4回合格率	21055	12329	58.6
第1～4回合格率	87736	56049	63.9

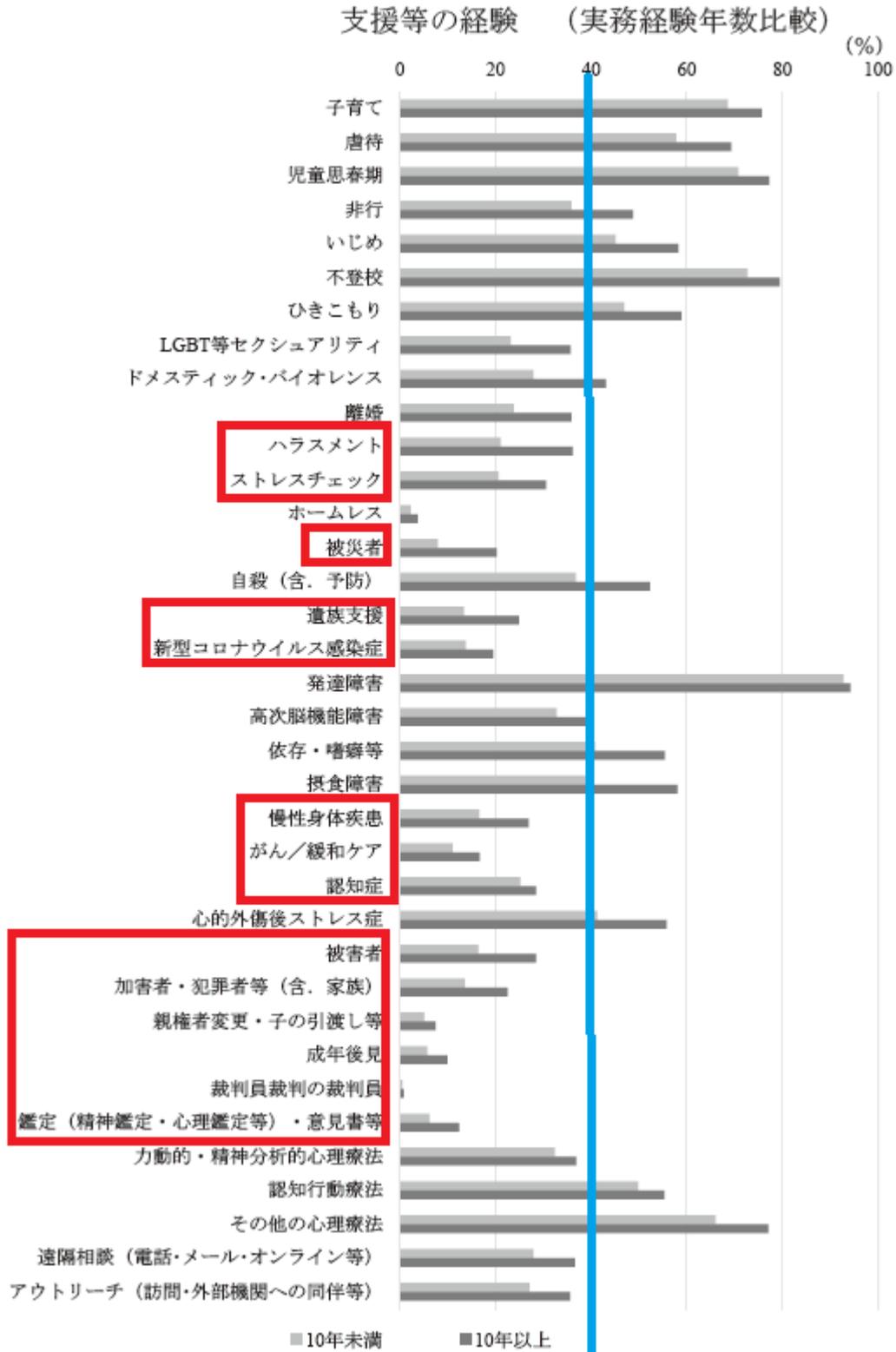
- ・前回の講評と同様に現任者試験が行われる第5回までの間は、4割台から5割台の合格率で推移するレベルでの出題可能性も「まだある」点は覚悟しておいた方が良さだろう。第4回で上記に挙げた課題はクリアしつつあるが、現時点では第5回では50%台を想定している。ただし、Gルートにとって有利となる現場の対応に近い事例は引き続き出題されるだろうし、現任者であることを確かめるような設題は続くものと推察される。D・Eルートにとっても実習での検討・振り返りなど、丁寧に深めていくことが大切になってくるだろう。今後も、臨床実践の中で根拠のある心理的支援、関わりが理解できているか、問われ続ける可能性は視野に入れておきたい。

③「公認心理師の活動状況等に関する調査」は第5回試験においても重要な資料となる。

ライフサイクルと公認心理師の支援



引用：「公認心理師の活動状況等に関する調査」（一般社団法人公認心理師協会）P20



引用：「公認心理師の活動状況等に関する調査」（一般社団法人公認心理師協会）P72

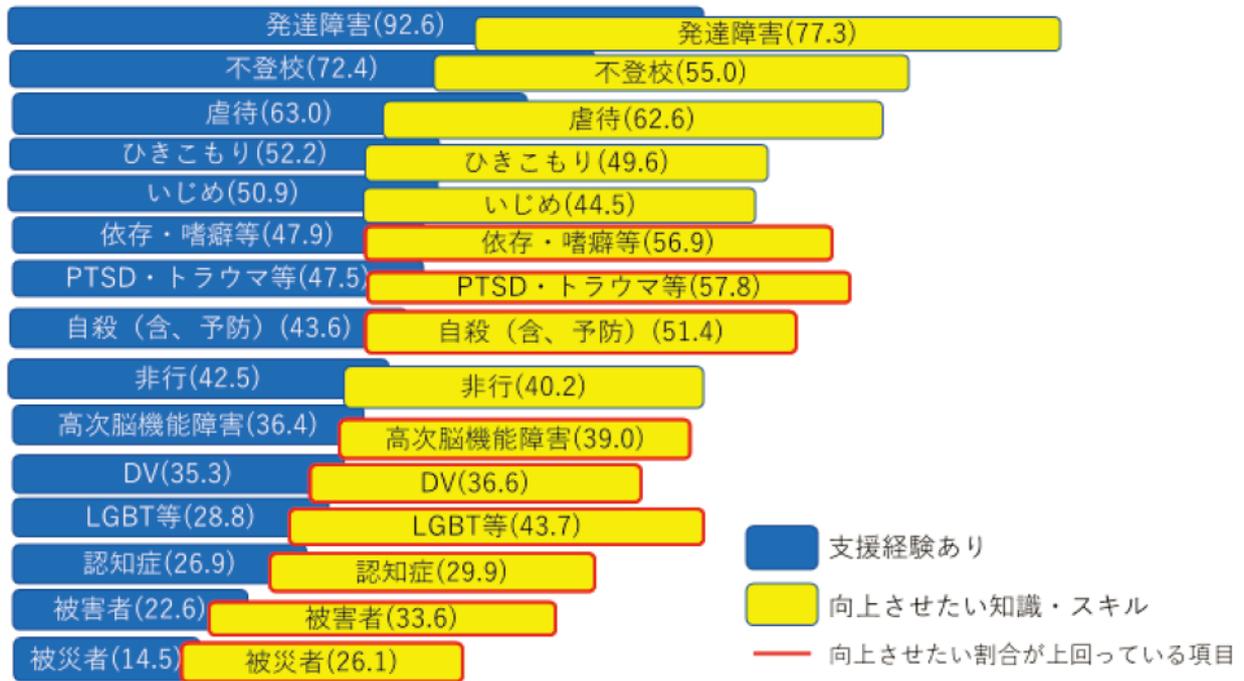


図12-8 専門性の高い分野横断的業務

引用：「公認心理師の活動状況等に関する調査」（一般社団法人公認心理師協会）P200

- ・上記 3 つの図を俯瞰してみてもいかがでしょうか。本資料を試験委員が参考にしたかどうかに関わらず公認心理師試験が心理師全体の現状と潮流、そして今後期待される公認心理師の方向性を反映していることを鑑みると、明瞭に示唆した資料であると改めて感じている。
- ・本資料は他にも今後を推察する上で重要な内容（図版を含む）が記載されている。第 5 回受験生においては一度手にとって読まれることをお勧めしたい。できれば「概要版」ではなく「本編」の方を一読されたい。リンクは以下に記載します。
- ・一般社団法人公認心理師協会「公認心理師の活動状況等に関する調査」
https://www.jacpp.or.jp/association/hojokin_2020.html
 （2020 年度 厚生労働省 令和 2 年度障害者総合福祉推進事業報告書）
- ・第 4 回試験対策では「公認心理師の活動状況等に関する調査」が示唆する内容を加味し、BP の吟味・試験委員の分析、過去問題の統計的解析、各種試験の出題動向、時事的な課題等の精査を通して、「予想模試」の構成に当たった。その際、第 2 回、第 3 回より平易にしつつも、第 5 回まで調整が持ち越される可能性も考えた難易度とした。これらの分析過程を通すことで **LEC に期待された「的確に出題キーワードや領域を当てていく」という役割**を果たすべく努めてきた。第 5 回もご期待頂けたら幸いです。

【今後に向けた予測と準備】

④全体動向を踏まえた難易度の調整は続いていくものと推測。

- ・第4回では「午前は約15500字」(前回約16600字)「午後は約14350字」(前回15900字)として第3回から読み込ませる量を減らして難易度の調整を図っていた。
- ・前回(第3回)は読み込む量を増加させ、知識問題の理解のレベルを前年より難化させ、事例をやや易化させたことで、全体の文字数と時間との調整がなされていた。今回(第4回)はその逆とまではいかないが、知識はシンプルに名称や内容を聞く出題を増やして易化させ(第1回に近似)、事例では判断の迷いそうな出題も織り交ぜながら前年よりも難易度を上げたものと考えられる。特に事例ではリード文の部分カットを含め情報量を調整したことで、読み込む量は減少したものの、かえって判断が難しくなった問題が散見された。
- ・第5回試験はやや難化するものと考えている。その意味でも、今まで採られてきた手法は引き続き視野に入っているものと思われる。5割程度想定するならば、第3回と同じ程度の調整は行われる可能性もあるため用心はしておきたい。
- ・前回の講評においても記載したが、第3回では受験生にとって解きやすい設題は午後に設定し、迷わせる設題を前半から中盤に設定していた。そのためには受験生によっては、前半から中盤に時間を多く使ってしまい、平易な後半の設問に時間を十分に使えなかった人も多かった。第4回では出題方式と文字量の調整により、時間切迫による課題は少なくなったものの、前半から中盤の設題に悩ませる設題が配置されていた点は変わらなかった。この傾向は今後も続くものと思われる。もし第5回が難易度を上記のような物理的な調整によって上げてくるとすれば、設題の配置調整に加えて時間切迫が加わることで、追い込まれる受験生も多くなるのではないかと感じられる。準備不足とならないよう心掛けたいものである。
- ・択二問題に関して前回の講評では『ただし、事例での択二は難易度を上げることが難しいため(片方の選択肢だけ意味の分からないものをつっ込んだような問題は作成しづらい)、「時間は使わせるものの、平均点を上げる」役割を果たすことが公認心理師試験では多い点に着目してもらいたい。事例択二の平均は、事例択一の平均と比較しても1割から2割程度の正答率の上昇になっていることが公認心理師試験では多い点に留意が必要である。また上記の択二設題における正答率の上昇傾向は、知識問題でも同様のことが視察された。ただし、注意をしなければならないのは、知識における択二設題は問題内容や項目からも、昨年から引き続いた流れを受け止め、総合的に出題をした設題が多い点で注目してもらいたい』と記載した。この傾向は今年も変わらなかった。
- ・択二は第1回試験～第2回試験までは、難易度・制限時間の調整役(スタビライザー)として機能していた。注目すべきは第3回では事例を中心に択二の正答率の高さが際立っていた点である。択二は過去の出題から判断できる選択肢が多く(少なくとも一択は過去の出題から判断が可能である)、もう一つの選択肢が実質的に問われている設題になっていた。今後もこの傾向は続くものと推察される。そのため、第5回の難易度を想定すると増加に対する準備と心づもりはしておいた方が良いでしょう。
- ・やはり、国家試験において、知識や事例など「内容レベル」での難易度の調整することは限界があるのだ。その意味でも試験委員が着目しているのは物理的なレベル(時間や設問設定)での難易度の調整である。

試験日	設題	形式	午前	午後	小計	計	配点
2018 1回目	知識	択一	50	46	96	116	96
		択二	8	12	20		20
	事例	択一	18	18	36	38	108
		択二	1	1	2		6
2018 北海道	知識	択一	46	48	94	116	94
		択二	12	10	22		22
	事例	択一	16	16	32	38	96
		択二	3	3	6		18
2019 2回目	知識	択一	49	48	97	116	97
		択二	9	10	19		19
	事例	択一	17	16	33	38	99
		択二	2	3	5		15
2020 3回目	知識	択一	50	51	101	116	101
		択二	8	7	15		15
	事例	択一	16	16	32	38	96
		択二	3	3	6		18
2021 4回目	知識	択一	52	54	106	116	106
		択二	6	4	10		10
	事例	択一	18	18	36	38	108
		択二	1	1	2		6
上限予想	知識	択一	46	46	92	116	92
		択二	12	12	24		24
	事例	択一	15	15	30	38	90
		択二	4	4	8		24

⑤（昨年同様だが）ブループリントへの追加項目を反映した設問は確実に出題されていた

- ・今回の第4回試験においてもブループリントの追加項目を反映した設問は確実に出題されていた。この点は今後も変わらないだろう。

遠隔カウンセリング	多職種連携	コンピテンシー	ACP
期待違反法	終末低下	QOL	エイジングPD
3種・社会性	言語獲得支援S	アセスメントFB	医療倫理・患者安全
エイジズム	生活の中での治療	被虐待児・心理療法	BPSD
特別支援教育	コラボレーション	学校危機支援	学校文化
キャリア形成・支援	働き方改革	ストレスチェック	診療録
刑事司法制度	少年司法制度	刑事施設	労働者派遣法
高齢者の心理	チョムスキー	乳児への実験法	意思決定と詐欺被害
知覚・認知機能の障害	鋭敏化	感情と動機づけ	
障害者の基本的権利	合理的配慮	対人関係の発達	
リエゾン精神医学	福祉の基本理念	軽度認知障害	
関係者・心理支援	アクティブL	生徒指導	
犯罪	犯罪予防・再犯予防	犯罪捜査・心理	
保険診療	成年後見制度	刑事法	
労働施策総合推進法	情報処理	AIDS	
人生会議	高齢・心理検査	認知症・心理支援	

- ・「問12 知覚の老化」「問15 TEACCH（特別支援教育）」「問32 成年後見制度」「問33 労働基準法が定める時間外労働の上限規制」「問35 アドバンス・ケア・プランニング」「問39 医療倫理の4原則」「問47 公認心理師の基本的なコンピテンシー」「問56 特別支援教育コーディネーターの役割」「問65 70歳女性・アルツハイマー型認知症・非薬物的介入」「問68 45歳男性SC・アクティブラーニング」「問74 35歳女性SC・生徒自死後の対応・緊急支援（学校危機支援）」「問92 サクセスフルエイジング」「問98 病初期のAlzheimer型認知症の所見（含MCI）」「問100 情状鑑定（刑事司法制度）」「問123 医療の倫理的ジレンマ」「問129 心理検査結果を報告する際の対応」「問130 仕事と生活の調和推進のための行動指針」「問133 感染症の標準予防策（公衆衛生）」など少なく見積もっても上記18問は関連した出題と言えるだろう。今後もこれらの傾向は続く可能性があり、注視しておく必要があるだろう。
- ・今回はこれらのブループリント項目追加による移行設問に対応できずに苦戦した受験生も前年同様に多かった。ちなみにLECでは上記の18問のうち17問を各種講座や模試等で取り扱っていた。講座や模試は各社得意分野があるので、今後本試験に臨まれる方はできるだけ多くの模試に触れ、必要な講座を受講し、不足領域を相互にカバーする感覚で取り組まれる手法も有効と思われる。

⑥（昨年同様に）実務的な問いや臨床像の理解に関する問いも多く見られた

- ・引き続き**心理検査**に関する問いなどはそうと言えるだろう。継続して記載しておくが、どれも臨床の現場でよく使う心理検査であり、医療系を中心に十分な臨床経験を積んでいれば確実に解けた問題であったと思われる。今後も試験向けの知識だけでは簡単に解答できないように作問されるものと思われる。それを踏まえて今年も「完成講座の心理アセスメント」「基礎－発展生講座」「直前駆け込み講座」を中心に**インテーク、フィードバック、テストバッテリー(事例)**に力点を入れて取り組んできた。その際には**現場で活かせる知識や理解、他領域で活用する検査、臨床上での理解(含カットオフ値)など取得後も見据えた講義を展開してきた。**第4回試験では「BDI-II」「HDS-R」「WAIS-IV」「IES-R」「LSAS-J」「MAS」「MCHAT」「MMSE」「RBMT」「SLTA」「WCST」「WISC-IV」「GDS-15-J」など前回試験でプロログとして垣間見えた尺度（DSM-Vへの理解を含む）を中心に、ブループリントの傾向を反映する形での出題が散見された。ただし、前回もお伝えしたように、どれも臨床の現場でよく使われる心理検査であり、「心理職の現任者」として十分な臨床経験を積んでいれば確実に解けた問題であったと言っても過言ではない。本試験はあくまで「心理職の現任者」としてのGルートである点に留意をして頂きたい。心理検査を取り扱ったことのないGルート（一部の）受験生は、今後も不安を感じるような出題傾向が続くと思われる。また院卒のD・Eルートであっても受験時はまだ十分な実習や経験を積んできている時期ではないため、こちらも同様であろう。ただし、合格後は経験年数に関係なく、皆同列の国家資格である「公認心理師」として取り扱われるため、一定程度の現場レベル（十分な実習経験を含む）の力量が試される可能性を視野に準備をしていくのが良いと感じる。特にこれから心理職を目指そうとしている（本気系の）受験生は、目の前の試験にとらわれすぎず、取得後のことも踏まえた準備をおすすめしたい。現時点では、心理としての現場を持っていなくても構わないので、機会の折に現場の心理職とも情報交換を行ったり（各先生の動画を見たり）、系統立てて学ぶことも大切なので、講座の受講するなど、残り9カ月の受験まで心理の学習に没入する機会を多く持たれることが大切だと思われる。私見だが、公認心理師はただ取得するのではなく、どう取得していくかによって取得後の未来が結構変わってくるものだと感じている。しっかり学んで7割・8割を確実に取れるように準備するにこしたことはない。ここから残りの9カ月悔いのないように頑張ってください。
- ・加えて、今までの講評と同様に現場で説明する際にも必要と思われる**病態生理の知識、薬理、脳機能に対する問い、臨床像への理解**を問う、やや突っ込んだ理解を試す設問は変わらず出題されていた。さらに今年のYouTubeの中で「**不安」「抑うつ」に関わる2軸**について池田先生との試験講評対談の中でも説明してきた。特に不安に関わる設題は心理検査を含めて増加を予測し、その通りとなった。今後も先述した傾向は続くが、第4回を受けて**第5回ではもう1つ軸が加わる**（心理支援や療法と連動する形式も含まれる）ように想定している。引き続き丁寧な準備が求められるだろう。

⑦難易度以上に正答の多かった設問・誤答の多かった設問について

- ・前年の講評の中で「難易度以上（想定以上）に正答の多かった設問は、重要なテーマである場合は練り直しをして難易度を上げて再出題をするか、別の課題に切り替える可能性が推察される。反対に難易度以上（想定以上）に誤答の多かった設問に対しては、今回の試験がプロログ（たたき台）となって再出題される可能性が視野に入ってくる」との説明を行った。この点に関しても想定通りとなった。第3回の試験に戻して確認すると「問4 自殺のポストベンション」「問5 遊戯療法」「問27 労働者のメ

ンタルヘルスケア」「問 45 心理療法・カウンセリングの効果研究」「問 52 DSM-5・全般性不安症」「問 59 2 要因分散分析」「問 76 5 歳男児・児童養護施設での支援」「問 88 DSM-5」「問 93 物質関連障害」「問 95 災害時の保健医療支援体制」「問 97 MMSE」「問 123 保護観察所の業務」「問 132 アルコール依存症の離脱症状」「問 134 社会状況の変遷と不登校」「問 147 12 歳女児・スクールカウンセラーの対応」などは第 4 回へ繋がっていった設題である。第 5 回に向けても第 4 回の結果がプロローグとなって出題に繋がっていくことも想定しておく必要があるだろう。

⑧LEC 講義・模試等の適合率に関して

・全体として 154 問中 146 問が適合（適合率 94.8%）できていた。

- ・かなりの高適合率で出来すぎに思うが、第 5 回対策も 85%を超えるように謙虚に取り組みたい。
- ・本年も取得後に差のつく魅力的な講座となるように設定していきたい。LEC の講座は初めて本格的に心理を学ぼうとする方から、読み解きづらい専門対策書の読み解きや、確実な合格に向けて取り組みたい方まで、ある意味網羅的な講座となっている点が強長と言える。困った際はご遠慮なくコールセンターに相談を頂くか（0570-064-464）、HP のフォームから相談のメールを頂けたらと思います。

<https://www.lec-jp.com/system/soudan/>

2. センター公表版解答 3. LEC 各講座にて取り扱った内容との適合度

※番号塗りつぶしは（想定外設問を含む）要復習問題である。

番号	問題内容	神戸解	難易度	適合
1	公認心理師法(処分・罰則)	2	A	1
2	自損行為の疑い(確認優先度)	4	A	1
3	学生相談室(連携)	3	A	1
4	ゲシュタルト心理学	5	A	1
5	平均の名称(算術平均)	3	A	1
6	因子分析(回答形式)	4	B	1
7	ゲートコントロール理論	3	C	1
8	モデリング	2	A	1
9	ロジャーズ(パーソナリティ理論)	1	A	1
10	失読失書	1	C	1
11	集合的無知(多元的無知)	2	B	1
12	知覚の老化	2	A	1
13	DSM- 5(神経発達症群/神経発達障害群)	5	A	1
14	DSM- 5(心的外傷およびストレス因関連障害群)	1	A	1
15	TEACCH	2	A	1
16	脳損傷者に対する神経心理学的アセスメント	4	B	1
17	関与しながらの観察	2	A	1
18	負の相補性	5	A	1

19	産後うつ病	2	A	1
20	職場復帰支援	2	A	1
21	児童養護施設における入所児童の特徴や傾向	2	B	1
22	感覚運動学習	3	B	1
23	ユニバーサルデザイン授業	3	A	1
24	保護観察所における生活環境調整	3	B	1
25	ホルモンの作用	1	A	1
26	くも膜下出血	5	A	1
27	アルコール健康障害	4	A	1
28	1型糖尿病の高校生の治療における留意点	5	A	1
29	せん妄	2	A	1
30	特定健康診査と特定保健指導について	3	B	1
31	医療法で規定されている医療提供施設	2	A	1
32	成年後見制度	3	A	1
33	労働基準法が定める時間外労働の上限規制	2	B	1
34	スーパービジョン	5	A	1
35	アドバンス・ケア・プランニング	4	A	1
36	会話の公理	2	A	1
37	成人クライアントに対する心理検査の目的	2	A	1
38	M.E.P.Seligman が提唱する PERMA	2	C	
39	医療倫理の4原則	2	B	1
40	児童の権利に関する条約	2	A	1
41	MMSE の実施・解釈・報告	3	A	1
42	適性処遇交互作用・ATI	5	A	1
43	学校にピアサポート・プログラムを導入する目的	2	A	1
44	免疫担当細胞・白血球	3	A	1
45	犯罪被害者基本法	1	A	1
46	心理療法の実施におけるインフォームド・コンセント	2	A	1
47	公認心理師の基本的なコンピテンシー	2	A	1
48	ストレンジ・シチュエーション法	4	A	1
49	いじめ防止対策推進法	2	B	1
50	心理的支援活動の理論化	2	B	1
51	個人情報保護法	2	A	1
52	職場におけるセクシャルハラスメント防止対策	2	A	1
53	要保護児童対策地域協議会	3・5	A	1
54	マインドフルネスに基づく認知行動療法	3・5	A	1
55	子どもの貧困問題	2・5	B	1

56	特別支援教育コーディネーターの役割	1・4	A	1
57	司法面接場面における認知面接	1・2	B	1
58	治療と仕事の両立支援について	3・4	A	
59	パス解析・相関係数	3	B	1
60	32歳女性・育児不安・ソーシャルサポート・コンボイ	3	A	1
61	5歳男児・心理的発達・自己抑制	2	B	1
62	22歳男子大学生・学生相談室・初期対応	2	A	1
63	学会発表・先行研究・盗用	1	A	1
64	28歳女性・災害時メンタルヘルス・対応と連携	5	A	1
65	70歳女性・アルツハイマー型認知症・非薬物的介入	2	A	1
66	67歳男性・HDS-R/GDS-15-J・疑われる状態	1	B	1
67	小学3年生学級・学級内指導における変化	5	A	1
68	45歳男性 SC・アクティブラーニング	5	B	1
69	16歳男子・保護観察所・初回面接内容	1	B	1
70	製造業・ダイバーシティマネジメント	5	A	1
71	39歳男性・存続的(功利的)コミットメント	4	B	
72	53歳女性・壮年期における環境変化と心身の状態	5	A	1
73	50歳女性・悲嘆・院内心理師の対応	2	A	1
74	35歳女性 SC・生徒自死後の対応・緊急支援	4	A	1
75	70歳女性・万引き・介護に伴う負担	1	A	1
76	20歳女性・事故目撃・BDI-II/IES-R	4	B	1
77	7歳男児・虐待・対応について	4・5	A	1
78	担当クライアントへの秘密保持義務違反	5	A	1
79	小4女児・遊戯療法・発話内容からの優先考慮	3	A	1
80	保健師助産師看護師法	1	A	1
81	A.Ellis・論理情動行動療法	4	A	1
82	2要因混合分散分析	1	B	1
83	カウンターバランス	5	A	1
84	色覚の反対色過程(補色残像)	2	C	
85	フレーミング効果	4	B	1
86	認知言語学における経験の役割	2	B	1
87	A.H.Maslow の欲求階層説	3	A	1
88	S.Schacter と J.Singer の2要因説	3	B	1
89	ミラーニューロン	5	B	1
90	社会的交換理論	3	A	1
91	コールバーグの道徳性発達理論(道具主義的相対主義)	5	B	1
92	サクセスフルエイジング(ソーシャル・コンボイの維持)	3	A	1

93	ICFの説明	4	A	1
94	G. Batesonの二重拘束理論	5	B	1
95	WAIS- IV	2	A	1
96	スキーマ療法	1	A	1
97	心理療法における効果検証に用いられる方法	3	A	1
98	病初期のAlzheimer型認知症の所見(含MCI)	5	A	1
99	教育評価	4	B	1
100	情状鑑定	4	A	1
101	ストレスチェック制度	2	B	1
102	動機づけ理論	4	A	1
103	メニエール病(めまい)	2	B	1
104	統合失調症の特徴的な症状	2	A	1
105	依存を生じやすい薬剤	5	A	1
106	抗認知症薬(ドネペジル)	4	A	1
107	児童福祉法	4	A	1
108	少年法	5	A	1
109	個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン	3	B	1
110	チームアプローチをとる際の公認心理師の姿勢	5	A	1
111	認知的不協和理論	1	B	1
112	味覚における五基本味	2	B	1
113	心理的アセスメントにおけるインフォームド・コンセント	4	A	1
114	アウトリーチの説明	4	A	1
115	心身症	5	A	1
116	災害支援者を対象とするストレス対策	5	A	1
117	複雑性悲嘆に対するj.W.Wordenの悲嘆セラピーの原則や手続	3	B	1
118	緊急一時保護の判断基準	1	A	1
119	学習障害	3	A	1
120	医療観察法(退院処遇)	4	A	1
121	うつ病(減退、減少しないもの)	3	A	
122	いじめ予防プログラムの実践(作成-評価)	3	B	
123	医療の倫理的ジレンマ	1	A	
124	ヒトの知覚の特徴(共感覚)	3	B	1
125	人を対象とした心理学研究の倫理に関する説明	2	A	1
126	アルコール依存症	4	B	1
127	学生相談・学生生活サイクル上の課題	2	A	1
128	A. Banduraの理論・自己効力感	1	A	1
129	心理検査結果を報告する際の対応	4	A	1

130	仕事と生活の調和推進のための行動指針	1	B	1
131	学校教育に関する法規等の説明	1	B	1
132	ケース・フォーミュレーション	2・4	A	1
133	感染症の標準予防策(公衆衛生)	1・4	A	1
134	社会的養護における永続性(パーマネンシー)	4・5	B	
135	パニック発作の症状	3・5	A	1
136	20歳女性・境界性パーソナリティ障害	3	B	1
137	30歳男性・行動分析・三項随伴性・喫煙	3	A	1
138	28歳男性・出勤不能・BDI-II/MAS/LSAS-J	1	B	1
139	27歳男性担任・反抗的態度を取る生徒・コンサルテーション	2	A	1
140	65歳女性・レビー小体型認知症・パーキンソン症状を視野に	2	A	1
141	7歳男児・吸入器への恐怖反応・行動療法	3	A	1
142	54歳男性・抑うつ症状・優先確認事項	2	A	1
143	25歳男性・消防士・災害救助従事者への支援	5	A	1
144	12歳女児・PTSD症状・登校渋り・校内コンサルテーション	4	A	1
145	14歳男子・児童養護施設・心理的不安定・施設内対応	5	A	1
146	30歳女性担任・いじめ対応の基本を踏まえた確認事項	2	B	1
147	40歳男性担任・ふざけ合いからの悪化事例・コンサルテーション	5	A	1
148	35歳男性・裁判員・メンタルヘルスの悪化・不眠	1	B	1
149	73歳男性・新型コロナウイルス罹患・せん妄	2	A	1
150	20歳男性・大学になじめない・ひきこもり	2	A	1
151	20歳男性・携帯端末・概日リズム・寝酒	5	A	1
152	10歳女児・選択性緘黙・学校内での対応	5	A	1
153	40歳男性・ストレス性健忘・会社の健康管理部門の対応	2	A	1
154	0歳男児・18歳母・措置先検討	1・2	B	1

4. LEC 公認心理師基礎力チェック模試+予想公開模試と第4回本試験との適合率

⑨基礎力チェックテストから出題予想キーワード確認（第4回 Ver.）

- ・てんかん うつ・不安の睡眠 不安に対するエクスポージャー法
- ・BPSDに対する支援 感染症とメンタルヘルス アレキシサイミア
- ・精神疾患の地域支援 地域の産後メンタルヘルス 家族療法の理論
- ・自律訓練法 点推定・区間推定 テスト理論 錐体外路症状
- ・薬理作用・副反応 うつ病に関する心理検査 心身症
- ・神経心理学的評価 脳の機能局在 神経伝達物質 サイコオンコロジー
- ・心の理論 発達検査の特徴 非定型発達に対する介入および支援
- ・ソーシャルサポート（コンボイモデル） 生活習慣病（糖尿病）・フレイル
- ・心因性発熱 面会交流 労働者のメンタルヘルスケア 心理的負荷による精神障害の認定基準
- ・認知・行動療法 ウェクスラー式知能検査 通級指導教室 教育現場でのコンサルテーション
- ・言語獲得の過程 ディスレクシア・失語症 高次脳機能障害 認知症のアセスメント
- ・過敏性腸症候群 ゲートキーパー パワハラ防止法 児童期から青年期の精神障害
- ・乳幼児期における発達障害と特性 エリクソンの発達段階 記憶の種類 感覚・知覚
- ・原因帰属理論 摂食障害 統合失調症スペクトラム ひきこもり パーソナリティ検査

番号	担当者	項目	重要度	番号	担当者	項目	重要度
1	池田	てんかん	B	26	松葉	心因性発熱	B
2	池田	うつ・不安の睡眠	A	27	松葉	面会交流	C
3	池田	不安に対するエクスポージャー法	B	28	松葉	労働者のメンタルヘルスケア	A
4	池田	BPSDに対する支援	A	29	松葉	心理的負荷による精神障害の認定基準	B
5	池田	感染症とメンタルヘルス	A	30	松葉	認知・行動療法	A
6	池田	アレキシサイミア	A	31	金子	ウェクスラー式知能検査	B
7	池田	精神疾患の地域支援	B	32	金子	通級指導教室	B
8	池田	地域の産後メンタルヘルス	A	33	金子	教育現場でのコンサルテーション	A
9	池田	家族療法の理論	B	34	金子	言語獲得の過程	A
10	池田	自律訓練法	A	35	金子	ディスレクシア・失語症	A
11	藤島	点推定・区間推定	B	36	金子	高次脳機能障害	A
12	藤島	テスト理論	A	37	金子	認知症のアセスメント	A
13	藤島	錐体外路症状	B	38	金子	過敏性腸症候群	B
14	藤島	薬理作用・副反応	B	39	金子	ゲートキーパー	A
15	藤島	うつ病に関する心理検査	B	40	金子	パワハラ防止法	A
16	藤島	心身症	B	41	神戸	児童期から青年期の精神障害	B
17	藤島	神経心理学的評価	B	42	神戸	乳幼児期における発達障害と特性	A
18	藤島	脳の機能局在	B	43	神戸	エリクソンの発達段階	B
19	藤島	神経伝達物質	B	44	神戸	記憶の種類	A
20	藤島	サイコオンコロジー	A	45	神戸	感覚・知覚	B
21	松葉	心の理論	A	46	神戸	原因帰属理論	B
22	松葉	発達検査の特徴	A	47	神戸	摂食障害	B
23	松葉	非定型発達に対する介入および支援	A	48	神戸	統合失調症スペクトラム	B
24	松葉	ソーシャルサポート(コンボイモデル)	A	49	神戸	ひきこもり	A
25	松葉	生活習慣病(糖尿病)・フレイル	B	50	神戸	パーソナリティ検査	B

⑩予想模試からの出題予想キーワード確認（第4回 Ver.）

- ・双極性障害のアセスメント 不安に対するエクスポージャー法 大学生の自殺リスク
- ・成人期発達障害の二次障害 遺伝カウンセリング 認知症患者の家族支援
- ・高齢者における発達 がん患者家族のケア 健康行動促進モデル
- ・ストレスと生理・心理的反応 精神症状のアセスメントツール 健康増進法
- ・摂食障害 社交不安症 強迫性障害 限定性恐怖症 SNS・遠隔カウンセリング
- ・トランスセオリティカルモデル コロナ禍メンタルヘルス せん妄の対応
- ・学生相談 合理的配慮 認知症アセスメントツール アドバンスケアプランニング
- ・高齢者の心理支援 栄養とメンタルヘルス 感情と動機づけ
- ・アセスメント結果のフィードバック 犯罪捜査場面に関わる心理学 診療録
- ・刑事施設 会話分析 全般性不安症 運動知覚 愛着行動の発達 心身症の治療
- ・物質関連障害 周産期医療 クレプトマニア 地域包括支援センター
- ・生活困窮者自立支援法 ひきこもり支援 メンタライゼーション
- ・エモーション・フォーカスト・セラピー 回想法・ライフレビュー
- ・アクティブ・ラーニング ナラティブ・アプローチ 認知発達 遊びの型の発達
- ・うつ認知療法研究 ギャンブル依存 支援者のメンタルヘルス 診療報酬制度
- ・学校危機支援 中年期の発達課題 神経心理学的検査 コミュニティ・アプローチ
- ・心身症 障害受容過程 指定難病・難病法 医療事故防止 プロアクティブコーピング
- ・レム睡眠 新版K式発達検査 視覚記憶・モダリティ効果 適応型言語能力検査
- ・関係性と適応 慢性疲労症候群 心的外傷後成長 鋭敏化 期待違反法 被虐待児への心理療法
- ・乳児への実験法 多変量解析 メタ分析 実践的研究法 描画法
- ・回帰分析・重回帰分析 薬物動態 脳画像検査 チーム医療 アドヒアランス
- ・精神疾患の診断分類 リーダーシップ ストレスチェック制度 過労死・過労自殺
- ・受容体 ハラスメント 軽度認知症 リハビリテーション 観察法 労働災害
- ・労働施策総合推進法 失語症 実行機能 働き方改革関連法 学習理論 コンサルテーション
- ・縦断研究・コホート 聴覚の働きと構造 語用論 自律神経系 感情が行動に及ぼす影響
- ・大脳辺縁系 高次脳機能障害 過敏性腸症候群 向精神薬の作用機序 DSM-5
- ・2要因の分散分析 サーカディアンリズム バーンアウト・燃え尽き症候群 応用行動分析
- ・自傷行為 行動活性化 放課後等デイサービス 動機づけ面接 情報処理方略 自殺予防
- ・抑制性ニューロン 解離 社会的認知 カトニア 欺瞞性認知 神経心理学的評価
- ・ワーキングメモリー 起立性調節障害 吃音 認知と感情 目撃証言
- ・高齢者にみられる病態（補問有） 児童相談所運営指針 要保護児童対策地域協議会
- ・テストバッテリー（補問有） 更生保護に関する近年の取組（補問有） 強化スケジュール
- ・統合失調症と家族 摂食障害 味覚嫌悪学習 脳損傷後の支援 プライミング ホルモン・内分泌
- ・法定雇用率 SST 睡眠薬 身体醜形障害 医療観察制度 危機介入
- ・第4次犯罪被害者等基本計画 退薬症状 クロス集計表 注意機能 アイデンティティクライシス
- ・WMS-R 成年後見制度

午前	分類	項目	重要度	選択肢	担当	午後	分類	項目	重要度	選択肢	担当
1	事例	双極性障害のアセスメント	B	1	池田	78	知識	回帰分析・重回帰分析	B	1	藤島
2	知識	不安に対するエクスポージャー法	A	1	池田	79	知識	薬物動態	B	1	藤島
3	知識	大学生の自殺リスク	A	1	池田	80	知識	脳画像検査	B	1	藤島
4	知識	成人期発達障害の二次障害	A	1	池田	81	知識	チーム医療	B	1	藤島
5	知識	遺伝カウンセリング	A	1	池田	82	事例	アドヒアランス	B	1	藤島
6	事例	認知症患者の家族支援	A	1	池田	83	知識	精神疾患の診断分類	B	1	藤島
7	知識	高齢者における発達	B	1	池田	84	知識	リーダーシップ	B	1	藤島
8	事例	がん患者家族のケア	B	1	池田	85	知識	ストレスチェック制度	B	1	藤島
9	知識	健康行動促進モデル	B	1	池田	86	知識	過労死・過労自殺	B	1	藤島
10	知識	ストレスと生理・心理的反応	B	1	池田	87	知識	受容体	A	1	藤島
11	知識	精神症状のアセスメントツール	B	1	池田	88	知識	ハラスメント	B	1	藤島
12	知識	健康増進法	A	1	池田	89	知識	軽度認知症	B	1	藤島
13	知識	摂食障害	A	1	池田	90	知識	リハビリテーション	B	1	藤島
14	知識	社交不安症	A	1	池田	91	知識	観察法	A	1	藤島
15	知識	強迫性障害	A	1	池田	92	知識	労働災害	A	1	藤島
16	知識	限定性恐怖症	A	1	池田	93	知識	労働施策総合推進法	B	1	藤島
17	知識	SNS・遠隔カウンセリング	B	1	池田	94	知識	失語症	A	1	藤島
18	知識	トランスセオリアリカルモデル	A	1	池田	95	知識	実行機能	A	1	藤島
19	知識	コロナ禍メンタルヘルス	A	1	池田	96	知識	働き方改革関連法	B	1	藤島
20	知識	せん妄の対応	A	二択	池田	97	知識	学習理論	A	1	藤島
21	事例	学生相談	A	1	池田	98	知識	コンサルテーション	B	1	藤島
22	知識	合理的配慮	B	1	池田	99	知識	縦断研究・コホート	B	1	藤島
23	知識	認知症アセスメントツール	A	1	池田	100	知識	聴覚の働きと構造	B	1	金子
24	知識	アドバンスケアプランニング	A	1	池田	101	知識	語用論	B	1	金子
25	事例	高齢者の心理支援	B	1	池田	102	知識	自律神経系	A	1	金子
26	知識	栄養とメンタルヘルス	B	1	池田	103	知識	感情が行動に及ぼす影響	A	1	金子
27	知識	感情と動機づけ	B	1	池田	104	知識	大脳辺縁系	B	1	金子
28	事例	アセスメント結果のフィードバック	A	1	池田	105	知識	高次脳機能障害	A	1	金子
29	知識	犯罪捜査場面に関わる心理学	B	1	池田	106	知識	過敏性腸症候群	B	1	金子
30	知識	診療録	A	1	池田	107	知識	向精神薬の作用機序	A	1	金子
31	知識	刑事施設	B	1	池田	108	知識	DSM-5	A	1	金子
32	知識	会話分析	B	1	松葉	109	事例	2要因の分散分析	A	1	金子
33	知識	全般性不安症	A	1	松葉	110	知識	サーカディアンリズム	A	1	金子
34	知識	運動知覚	A	1	松葉	111	知識	バーンアウト・燃え尽き症候群	B	1	金子
35	知識	愛着行動の発達	A	1	松葉	112	知識	応用行動分析	A	1	金子
36	事例	心身症の治療	A	1	松葉	113	知識	自傷行為	A	1	金子
37	知識	物質関連障害	A	1	松葉	114	知識	行動活性化	B	1	金子
38	知識	周産期医療	A	1	松葉	115	知識	放課後等デイサービス	B	1	金子
39	知識	クレプトマニア	A	1	松葉	116	知識	動機づけ面接	A	1	金子
40	知識	地域包括支援センター	A	1	松葉	117	知識	情報処理方略	B	1	金子
41	知識	生活困窮者自立支援法	B	1	松葉	118	知識	自殺予防	A	1	金子
42	知識	ひきこもり支援	A	1	松葉	119	知識	抑制性ニューロン	B	1	金子
43	知識	メンタライゼーション	B	1	松葉	120	知識	解離	A	1	金子
44	知識	エモーション・フォーカスト・セラピー	B	1	松葉	121	知識	社会的認知	A	1	金子
45	知識	回想法・ライフレビュー	A	1	松葉	122	知識	カタニア	B	1	金子
46	知識	アクティブ・ラーニング	A	1	松葉	123	知識	欺瞞性認知	B	1	金子
47	知識	ナラティブ・アプローチ	A	1	松葉	124	事例	神経心理学的評価	B	二択	藤島
48	知識	認知発達	A	1	松葉	125	知識	ワーキングメモリー	A	二択	金子
49	知識	遊びの型の発達	B	1	松葉	126	知識	起立性調節障害	A	二択	金子
50	知識	うつの認知療法研究	A	二択	池田	127	知識	吃音	A	二択	金子
51	知識	ギャンブル依存	B	二択	池田	128	知識	認知と感情	B	二択	金子
52	事例	支援者のメンタルヘルス	B	二択	池田	129	知識	目撃証言	B	二択	金子
53	知識	診療報酬制度	B	二択	池田	130	知識	高齢者にみられる病態(補問有)	A	二択	神戸
54	事例	学校危機支援	A	二択	池田	131	知識	児童相談所運営指針	B	二択	神戸
55	知識	中年期の発達課題	A	二択	松葉	132	知識	要保護児童対策地域協議会	A	二択	神戸
56	事例	神経心理学的検査	B	二択	藤島	133	知識	テストバッテリー(補問有)	A	二択	神戸
57	知識	コミュニティ・アプローチ	B	二択	藤島	134	知識	更生保護に関する近年の取組(補問有)	B	二択	神戸
58	知識	心身症	B	二択	藤島	135	知識	強化スケジュール	B	二択	神戸
59	知識	障害受容過程	B	1	松葉	136	知識	統合失調症と家族	A	1	金子
60	知識	指定難病・難病法	B	1	松葉	137	知識	摂食障害	A	1	金子
61	知識	医療事故防止	B	1	松葉	138	知識	味覚嫌悪学習	B	1	金子
62	知識	プロアクティブコーピング	A	1	松葉	139	知識	脳損傷後の支援	A	1	金子
63	知識	レム睡眠	A	1	松葉	140	知識	ブライミング	A	1	金子
64	知識	新版K式発達検査	A	1	松葉	141	知識	ホルモン・内分泌	B	1	金子
65	知識	視覚記憶・モダリティ効果	B	1	松葉	142	知識	法定雇用率	A	1	岩崎・神戸
66	知識	適応型言語能力検査	B	1	松葉	143	知識	SST	A	1	岩崎・神戸
67	事例	関係性と適応	A	1	松葉	144	知識	睡眠薬	B	1	岩崎・神戸
68	知識	慢性疲労症候群	A	1	松葉	145	知識	身体醜形障害	B	1	岩崎
69	知識	心的外傷後成長	A	1	松葉	146	知識	医療観察制度	B	1	岩崎
70	知識	鋭敏化	B	1	松葉	147	知識	危機介入	A	1	岩崎
71	知識	期待違反法	A	1	松葉	148	知識	第4次犯罪被害者等基本計画	A	1	岩崎
72	知識	被虐待児への心理療法	B	1	松葉	149	知識	退薬症状	A	1	岩崎
73	知識	乳児への実験法	A	1	松葉	150	知識	クロス集計表	A	1	岩崎
74	知識	多変量解析	B	1	藤島	151	知識	注意機能	A	1	岩崎
75	事例	メタ分析	B	1	藤島	152	知識	アイデンティティクライシス	A	1	岩崎
76	知識	実践的研究法	A	1	藤島	153	知識	WMS-R	A	1	岩崎
77	知識	描画法	A	二択	藤島	154	知識	成年後見制度	B	1	岩崎

⑪9月15日のライブと直前生講座で話した要復習テーマに関して

①公衆衛生に関わる法令と統計

- 問 30 特定健康診査と特定保健指導について
- 問 31 医療法で規定されている医療提供施設
- 問 80 保健師助産師看護師法
- 問 133 感染症の標準予防策（公衆衛生）

- △問 33 労働基準法が定める時間外労働の上限規制
- △問 52 職場におけるセクシャルハラスメント防止対策
- △問 130 仕事と生活の調和推進のための行動指針

②周産期に伴う精神症状と支援

- 問 19 産後うつ病
- 問 154 0歳男児・18歳母・措置先検討

③サイコオンコロジーと終末期ケア

- 問 35 アドバンス・ケア・プランニング
- 問 58 治療と仕事の両立支援について
- 問 117 複雑性悲嘆に対する j.W.Worden の悲嘆セラピーの原則や手続

④認知症に伴う心身の変化とケア

- △問 12 知覚の老化
- 問 65 70歳女性・アルツハイマー型認知症・非薬物的介入
- 問 66 67歳男性・HDS-R/GDS-15-J・疑われる状態
- 問 75 70歳女性・万引き・介護に伴う負担
- 問 98 病初期の Alzheimer 型認知症の所見（含 MCI）
- 問 140 65歳女性・レビー小体型認知症・パーキンソン症状を視野に

⑤精神薬理と副作用

- 問 105 依存を生じやすい薬剤
- 問 106 抗認知症薬（ドネペジル）

⑥摂食障害⇒別展開・出題されず

⑦せん妄

- 問 29 せん妄
- 問 149 73歳男性・新型コロナウイルス罹患・せん妄

5. 今後に向けた学習上の留意点

①合格に向けて意識を高くもつこと（非効率学習のススメ）

- ・第4回試験を見て理解できたように、十分な臨床経験のない方や、他領域の方には厳しい内容の試験であったと思われる。やはり、基礎からしっかり時間をかけて勉強して頂きたい。試験に合格するだけの知識や理解であるならば、あまた存在する公認心理師の中で生き残ることは難しい。現場を含めて研鑽し、地道に学んだ分だけ力になるのが心理の良さとも言える。
- ・国家資格は「受かるか、諦めてやめるか」の2択しかありません。たとえ他領域であっても、その資格を取ってどう活かすかは自分次第ですし、周りの言葉は気にする必要はないのです。ただし、取得後は公認心理師として資質向上を続ける必要性と、職責への自覚を持ち続けることが不可欠であり、その覚悟がないならやめておいた方が良い試験でもあります。また他領域の方は積極的に先達の心理師と繋がり、教わったり、一緒に学ぶ機会を多く持つように意識してください（取得後も）。
- ・公認心理師として学び続けることに価値を見出したとすれば、まず心理師資格の取得までモチベーションを保ち続けてください。他社を含めていろいろな教材や講座があり、学ぶ環境は他国家資格と比べても充実していると思われます。上手に組み合わせつつ、試験対策を進めていってください。
- ・第5回試験講評は第6回対策になるため、大学院や大学向けに個別に実施する形式になるものと思われます。

②YouTube・Twitter・アメブロに関しては第5回向けまで試験情報は発信する予定です。直前では今年の生講座やZoomライブで取り組んだように、最終チェック予想も出していく予定です。引き続きのご視聴を宜しくお願い致します。（第6回以降は発信内容を変更する予定です）

<https://www.youtube.com/channel/UCx2pYl6conFMXfiTnqn6QFQ>

https://twitter.com/eimei_psy

<https://ameblo.jp/gohdontake/>

★LEC 講座・模試を活用して第5回公認心理師国家試験の合格をつかみ取りましょう★

－第4回公認心理師国家試験講評と解答速報は以上です－